

2022年度 西淀川インターナショナルコミュニティー活動報告書

目次

1. 団体概要.....	1
2. 2022年度活動実績.....	2
(1) 学習支援教室.....	2
① 学習支援教室「きらきら」.....	2
② Tabunka Juku “Animo” (たぶんかじゅく「アニモ」).....	3
(2) 「たぶんか相談会」.....	5
① 定例相談会.....	5
② 特別相談会「たぶんか高校進学セミナー2022」.....	6
(3) 地域の交流行事.....	7
3. その他.....	7
主な見学者.....	7
取材、新聞掲載.....	7
講演・学会発表等.....	8
連携団体.....	8
ご寄付等 ありがとうございます。.....	9

1. 団体概要

西淀川インターナショナルコミュニティー (Nishiyodogawa International Community、通称NIC) は、大阪市西淀川区に暮らす外国人住民、特に外国にルーツをもつ子どもへの育成支援を、外国人と日本人が協働して取り組むボランティア団体。

- 外国につながる子どもの学習支援教室
- 外国人住民向け生活相談会の開催
- 地域交流イベント開催

を実施している。詳細は以下を参照。

URL: <https://nishiyodoic.net>

facebook: <https://www.facebook.com/Nishiyodogawa.IC>



西淀川インターナショナルコミュニティー
Comunidad internacional de Nishiyodogawa

2. 2022 年度活動実績

(1) 学習支援教室

今年度は全回、対面による学習支援教室を開催できた。また、西淀川区役所、出来島地域の小・中学校、淀中学校学校元気アップ協議会、大阪市教育委員会人権・国際理解 G 第一共生支援拠点「らんまん」、西淀川こどもネット、等との連携が得られ、子ども支援の原動力となる組織的な連携ができた。

① 学習支援教室「きらきら」

- ・外国にルーツを持つ小学生対象の居場所と学習支援の場
- ・45 回開催、のべ 284 名の小学生参加、登録 21 名（2023 年 3 月末現在）
(ペルー、ブラジル、フィリピン、スリランカ、ネパール、ベトナム ルーツ)
- ・大阪市ボランティア活動振興基金、大阪市こどもの見守り強化事業補助金を基に運営

2021 年度に引き続き、毎週月曜日 16:00～17:10 に活動を実施した。2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオンラインでの活動を余儀なくされることもあったが、今年度は全回ゆうせいホールにおいて対面での支援活動が実施できた。活動にあたっては、検温や消毒、換気等、感染対策を十分に行った。



きらきら 学習風景

教室での活動においては、コーディネーターを中心とする支援スタッフが基本的にマンツーマンで子どもたちに付き、漢字や算数のドリル、プリント等、学校の宿題をサポートしたほか、教室で準備している教材やタブレット端末、本、カード等を活用し、それぞれの子どもの興味関心に合わせた学習をすすめることができた。教科学習だけでなく、季節のイベントに合わせた装飾づくりをする時間、低学年児童を中心に折り紙、お絵描き、かるた等のゲームをして楽しむ場面もあり、子どもたちの居場所としての機能も果たした。

参加した子どもたちの大半は日本生まれ、もしくは幼少期に来日しており、日本語での会話は流暢であるものの、在籍学年の学習内容の理解が追いついていないケースもあり、教科学習の伴走が必要であった。生活面や心理面でのサポートが必要と思われる場合もあり、子どもたちひとりひとりに寄り添った対応が求められた。

支援者は、引き続きスペイン語、英語等での会話ができるメンバーがおり、子どもや保護者への連絡、状況の共有などのコミュニケーションをとりやすい状態が維持できた。ボランティアの方々は小学校教育や日本語教育の専門家ではないが、教室にある様々なリソース

を活用したり、子どもの学習内容について自身でも勉強したりと熱心な姿勢が感じられた。また、学習支援に留まらず、学校へのお迎えやきらきらでの学習終了後の見送り、食品等の配付の補助をはじめ様々な側面で協力が得られ、食品配付の際にはムスリムの生徒向けのハラールの代替食品の購入・配付を通して生徒の文化への理解を深めてもらうことができた。今年度は地域に住むボランティアの方が増え、地域の活動として根付いていく兆しもうかがえる。ボランティア以外に大学生・大学院生の見学や実習もあり、子どもたちが新鮮な気持ちで様々な支援者と関わることができる機会となったといえる。

地域や家庭とのつながりについては、西淀川区役所や小学校と引き続き連携をとり、特に支援が必要な子どもについて適宜情報を共有することができた。子どものお迎え、情報共有のための学校への訪問、学校の先生方による教室の見学を通し、小学校との連絡も継続することができた。また、子どもの送り迎えで教室を訪れる保護者が多くなったことで、子どもについての情報共有や地域のイベントの案内など、保護者とコミュニケーションをとる機会が増加した。このほか、昨年度に続き「西淀川こどもネット」とのつながりから食品等を提供していただき、子どもの生活面での支援につなげることができた。

② Tabunka Juku “Animo”（たぶんかじゅく「アニモ」）

- ・外国につながる中学生等の居場所と学習支援を行い高校進学へのサポートを行った。
- ・実施回数：140回（出来島48、オンライン29、御幣島・柏里63）
- ・出席者数：生徒559名（のべ人数） 支援者521名（のべ人数）
- ・登録者数：生徒20名 支援者15名
- ・生徒のルーツ：ペルー、フィリピン、パキスタン、ネパール、スリランカ、ガーナ、エジプト
- ・大阪市塾代助成事業・大阪市こどもの見守り強化事業活用を基に運営



2022年度はコロナ関連の社会的状況の変化と共に対面での活動が可能となり、消毒、検温、換気、マスク着用を徹底し、ソーシャルディスタンスを保つため広いスペースの借用を継続した。学習に参加した子どもたちは、日本滞在年数で括ると3つのグループになる。（仮に①②③と表記）

- ①日本生まれ・保護者の母国と日本を何度か移動してきた生徒
 - ②渡日間もない生徒
 - ③ダイレクト生（母国で9年間以上の就学後来日し、高校受験を目指す生徒）
- ③については、3月以降の入国緩和で相次いで入国してきたネパールの子どもの多くはコロナ下で待機していた呼び寄せの子どもという傾向が見られた。

中学校卒業後、高校入試をめざして教室に来た過年度生の生徒を含め高校受験では全員合格できた。受験実績は2022年9月公立高校秋季選抜、2023年2月公立高校日本語指導が必要な生徒・外国人生徒選抜、特別選抜、私立高校専願、2023年3月公立高校一般選抜、二次選抜等であった。近年、進学先の幅が広がる傾向がみられている。

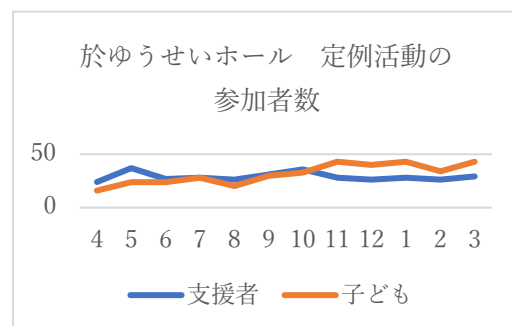
①②では受験科目等の内容、時期が異なり、③では、受験のための相談や資格審査の手続きを事前に大阪府教育庁で行う必要があり、言葉の壁に伴走する通訳者派遣が必要となる。幸い2022年10月より西淀川区役所で通訳者派遣の制度が始まり活用を試みた。公的機関に所属できないダイレクト生の居場所と学習支援の場所を提供し成果も上がったがボランティア団体の力の限界も痛感している。

ゆうせいホールにおける定例活動は、英語・数学・日本語を中心に教室の教材をメインに学習しながら、学校の宿題、定期テスト対応、英検対策等の学習を適宜支援した。

年度途中から参加のダイレクト生には、ゆうせいホール以外に西淀川区役所、健康友の会柏里様のご協力により学習時間を週3回（7時間）確保した。ダイレクト生の居住場所から近く、学校と同様の朝の時間帯を活用するものとした。日本語の4技能は全くできない状態から、当塾開発教材、半年で学ぶ日本語学習教材「JAPANESE 2015」を使用し、数学は基礎的な四則計算からの学習を日本語教師有資格者がチームを組んで支援した。6月以降渡日、入塾の生徒は9月実施の秋季選抜受験を希望していたが、当該高校から受験時期による特徴について情報提供が得られ受験時期を9月と2月に分散できた。支援者は、ダイレクト生対応に慣れない場合も多く、受験資格を得るまでの手続きへの支援方法なども、都度説明共有する必要があった。そのため来年度はダイレクト生支援のガイドブック制作を予定している。

その他に、希望者へのオンラインによる学習支援も行った。

定例の教室、ゆうせいホールでは地域の教室として緩やかな空間での居場所の要素を維持する一方で、学習支援の困難さが見られた。①の生徒の多くは提出物に追われるため基礎学力を獲得するには時間不足となるという傾向が見られた。



15名の支援者の構成は、大学院生、元当事者大学生、日本語教師、語学教師、元中学校・高校教員、個人塾講師、ライター、等々でありそれぞれの持ち味を活かして子どもに寄り添う熱心なサポートが得られた。学習支援後にはミーティングを行い学習記録アプリへの記

入により支援内容を共有しそれぞれの支援に活かしてきた。さらに年 2 回の支援者ミーティングでテーマに沿って意見交換と課題共有により支援内容を深めてきた。

昨年度の（公財）淀川勤労者厚生協会初任者研修に引き続き 8 名の見学と支援が得られた。また、武庫川女子大学生、大阪大学外国語学部生のフィールドワークの参加が得られた。いずれも熱意をもって参加され今後につながることを願っている。

イスラム教のラマダン時の学習時間帯配慮、食品配布時のハラール食品準備、保護者からの招待によるラマダン時のイフタール体験等々、支援者間で宗教上の文化習慣を通して多文化理解が深まった。

参考：たぶんかじゅくの経緯

2015 年、「きらきら」活動開始。当時の子どもたちの保護者からの強い要望で、2017 年 9 月から（特活）多文化共生センター大阪(当時)が「たぶんかじゅく Huku」を実施。保護者の熱意と協力で支えられブラジルレストラン(当時)を借用し、ブラジル・ペルー・ルーツの中 1・中 2、計 4 名から開講。2018 年 4 月以降、毎週月曜日 Tabunka Juku “Animo” (たぶんかじゅく「アニモ」)として、**外国につながる子どもの高校進学を応援する活動**を継続中。

(2)「たぶんか相談会」

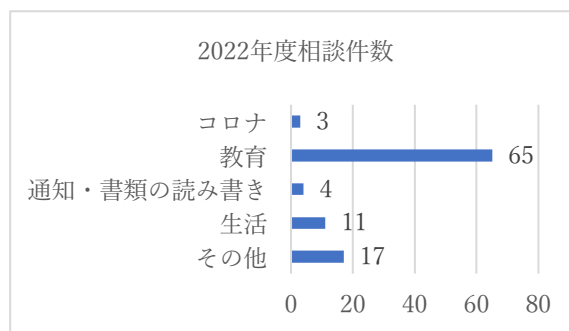
① 定例相談会

- ・相談件数：100 件
- ・実施時期と場所：毎週月曜日 15:00～16:00 ゆうせいホール
- ・実施対象：きらきら、アニモの保護者中心、一部保護者からの紹介者も含む
- ・担当者：地域に在住のスペイン語・ポルトガル語話者と NIC スタッフ
- ・対応言語：ポルトガル語・スペイン語・日本語

きらきら、たぶんかじゅくアニモの保護者を主な対象としているため、子どもの進路・進学、学習理解についての相談件数が特に多い。生活面では市営住宅への入居等の住居、日本語習得についての相談が多い。その他では子ども子育てプラザのイベント TABUNKA への勧誘方法や離婚に伴う子どもの親権について、商店会からの動画撮影について等が見られた。

相談内容の内訳：

コロナ関連	3 件
教育関連	65 件
通知・書類の読み書き	4 件
生活	11 件
その他	17 件



2021年8月より参加している「西淀川子どもネット」で2022年度も毎月の活動状況の共有を行い連携が得られ、活動に参加する子どもの家庭へ、米・トマト・菓子類・お弁当等の提供を受け相談対応を通じて繋がった家庭に食材による生活支援ができた。

生活相談については、相談者が月曜の午後教室に出向くことは無理な場合も多く、相談者数に含まれていない地域のキーパーソンの方が受けている病院関係等の相談については課題が残っている。

② 特別相談会「たぶんか高校進学セミナー2022」

- 目的：外国につながる子どもの高校進学支援。地域の多文化共生の取り組みとし、誰もが差別されず、のびやかに暮らしていける社会作りの一助とする。(実行委員会規約より)
- 参加者：98名
子ども19、保護者22、引率者3、同行の子ども6 …50名
(申し込み27家族 当日キャンセル6家族 当日保護者のみの参加2組)
支援者(通訳者7、先輩当事者7、大阪府教育庁高等学校課学事グループ・大阪市教育委員会指導部・実行委員会他28) …44名
見学者(区長、中央区役所、区内中学校) …4名
- 実施日：2022年7月31日(日)13時半～16時半
- 会場：大阪市西淀川区役所 5階大会議室
- 参加費：無料
- 参加した子どものルーツ：ネパール、中国、スリランカ、ペルー、フィリピン、ガーナ、日本
- 主催：たぶんか高校進学セミナー2022 実行委員会
大阪市立淀中学校
西淀川区役所
淀中学校区学校元気アップ協議会
大阪市教育委員会指導部人権・国際理解教育G第一共生支援拠点「らんまん」
西淀川インターナショナルコミュニティー(事務局)



たぶんか進学セミナー 開催風景

実行委員会が主催となって2年目の今回は、運営面において区役所・学校・民間ボランティア団体等の協働体制の深化充実が得られ、情報を希求する外国につながる子どもや家族のニーズに対応できた。コロナ禍のため、7月20日の大阪市多文化進路ガイダンスは、参加人数が限られ中学校在籍生も参加が難しい例やダイレクト生の参加ができなかったため、たぶんか高校進学セミナーは、一層受け皿の役割を果たしたようであり西淀川区以外からの参加者も見られた。今後も様々なケースが出てくると思われるが、関係機関と連携を深め必要なケースには柔軟な対応をしていきたい。

高校進学への情報伝達を強調した昨年の内容に対し、今年度は先輩当事者の参加を増やし共に話す時間が好評であった。今後はさらに内容充実を期し、先輩当事者の体験談を参加者全員で共有するなど、多くの参加者と外国につながる子どもたちの課題を共有し将来のキャリア形成上参考となることを目指していきたい。なお、昨年につき、健康相談会、法律相談会はコロナ禍のため開催できなかった。

(3) 地域の交流行事

昨年につきコロナ禍のため開催されなかった。

3. その他

主な見学者

- 5月…奈良学園大学講師と学生3名（見学）
- 6月…（公財）淀川勤労者厚生協会初任者研修担当者2名（見学、打合せ）
出来島小1名（支援協力）
- 7月…中央工学校 OSAKA1名（学校案内）
（公財）淀川勤労者厚生協会淀協から8名見学（支援）
- 8月…関西学院大学1名
- 9月…西淀川区役所1名
（公財）淀川勤労者厚生協会新入職員地域多職種研修振り返り発表会参加
- 10月…IKUNO 多文化ふらっと1名（ダイレクト生について情報交換）
武庫川女子大学学生1名（見学）
出来島小コラボレーター1名（見学）
株式会社オズマピーアール1名（パンの提供について）
出来島商店会会長1名（取材について）
- 11月…大阪大学外国語学部生（フィールドワークに毎週1～2名）
- 12月…大阪大学外国語学部生（フィールドワークに毎週1～2名）
…大阪市教育委員会1名
…大阪大学大学院人文学研究科 外国語専攻講師2名フィピン語・ベトナム語
（学生のフィールドワークについて）
…映画監督1名（商店会のショートムービー作成について）

取材、新聞掲載

- 10月…朝日学生新聞社 2022年11月20日掲載「日本語の学びを支え未来の力に」
- 11月…読売新聞大阪本社 2022年12月28日掲載「外国人の子 学習支援課題」



朝日中高生新聞 2022/11/20



読売新聞 2022/12/28

講演・学会発表等

- 10/28…大阪大学 学生フィールドワークに向けて
大阪大学外国語学部・人文学研究科（外国学専攻）で「外国にルーツを持つ子どもたちの地域での状況」について講演（坪内）
- 3/21…共生学会第1回大会 立正大学にてラウンドテーブルに参加
「多文化社会を共に生きる ー大阪市での実践を参考にー」
モデレーター：坪内好子 発表者：嵯本圭子、坪内好子

連携団体

- 西淀川区役所
- 淀中学校
- 淀中学校区学校元気アップ協議会
- 大阪市教育委員会人権・国際理解教育 G 第一共生支援拠点「らんまん」
- 大阪市教育委員会
- 地域こども支援ネットワーク
- 西淀川こどもネット
- 健康友の会柏里
- ゆうせい薬局
- Minami こども教室（相談役として坪内が実行委員会参加）
- 子どもの夢応援ネットワーク

子どもの夢応援ネットワークとは→2016年～「マイノリティ性をもつ子ども・若者の教育や就労

を支援する人たちのネットワークづくり」を目的に、地域で活動している団体、個人が集まって結成。それぞれの団体や個人が単独では進められないことや難しいことも、少しずつ課題解決に挑戦している。Facebook <https://ja-jp.facebook.com/kodomonoyume.ouen.nw/>

ご寄付等 ありがとうございました。

- ・大和証券福祉財団様から NIC の活動に対しボランティア活動助成金を頂戴しました。
- ・福島幸三様 ・牧野宏治郎様 ・志儀和明様 ・笠井正樹様 ・細江孝明様 ・川上憲一様
- ・江崎宏様 ・井川巧様 ・前田明美様 ・田部佐恵子様 ・重安義行様

西淀川インターナショナルコミュニティ（NIC）

本 部：大阪市西淀川区福町2丁目3-35 サリサリストア内

URL：<https://nishiyodoic.net> Email：nishiyic@gmail.com

事務局：一般財団法人ダイバーシティ研究所

URL：<https://www.diversityjapan.jp/>

2022 年度活動報告書

2023 年 6 月発行